

IgA 腎症に対する扁桃パルス療法

—個別に作戦を立てる—

IgA 腎症は透析導入の原因として 2 番目に多い疾患である。IgA というのは、のどの粘膜など細菌など外敵が侵入しやすい場所で防衛を担う大事な抗体でミサイルのような働きをしている。

IgA 腎症の患者ではこの IgA の不良品ができ血流によって遠く離れた腎臓で炎症を引き起こすと考えられている。患者さんの多くは検診で血尿と蛋白尿の異常を指摘され腎生検と呼ばれる精密検査で診断される。

以前は効果的な治療がなく多くの患者が末期腎不全から透析に至っていた。しかし現在、日本においては病気の元になっていると考えられる扁桃を摘出する手術と腎臓の炎症を強力に抑えるステロイドの点滴を組み合わせた「扁桃パルス療法」という非常に効果的な治療が開発され多くの患者が透析にまで至らずにすむようになってきた。

沖縄県では琉球大学医学部附属病院で初めてこの治療が導入され、過去 15 年間に 200 例以上の治療実績がある。しかし同じ IgA 腎症の患者でも炎症に加えて腎臓の中の高血圧が悪さをしている場合もあり、患者ごとの特徴に応じてきめ細かな治療戦略を立てることで非常に優れた治療成績が得られる。

実際、比較的若年者の場合、約 6 割では尿検査が完全に正常化した後は特別な治療や厳しい食事療法など不要になり実質的に治癒した状態まで回復する。中高年以降の患者でもよほど腎機能が低下していなければ多くの患者で透析に至るリスクを回避できている。また、他の病院でもはや治療は困難だとされた例でも尿検査が正常化し腎機能の悪化を防げた症例も少なからず経験している。

経過が長い場合個別に将来を見据えて治療方針を決めることが重要だ。今後は沖縄県の IgA 腎症による”透析導入ゼロ”を目指して、関係機関とネットワークを構築しより多くの患者さんに扁桃パルス療法を中心とした個別化治療を受けていただける仕組みを作っていきたい。

(血液浄化療法部医師・古波蔵 健太郎)

問合せ先：第3内科医局まで。電話 098-895-1150、FAX098-895-1416